

スポーツの価値を考える ～ Tokyo2020を通じて ～



緒方茂生氏

FINA（国際水泳連盟）競技役員

日本大学経済学部 卒業

現役時代は自由形100mから1500mまでの全ての距離で日本記録を樹立し、1984年ロス、1988年ソウル、1992年バルセロナ五輪に日本代表として出場した。引退後はミズノ水泳部監督などを歴任する傍ら、日本選手権など国内主要大会での審判長を務め、現在はFINA主要大会でも審判長として競技運営に携わっている。本シンポジウムでは、ご自身がFINA競技役員を務めることになった経緯や、実際の競技会準備から競技会後までの業務内容などを紹介していただき、2020東京大会への課題や、それ以降の競技会運営の展望について語っていただく。

小沢邦彦氏

競泳日本代表チームトレーナー

日本大学文理学部 卒業

本学体育学科在学中に現役を引退し、本学卒業後に東京大学研究生を経て鍼灸治療の国家資格を取得。1998年に自身の治療院を開業し、2000年シドニー五輪から競泳日本代表チームのトレーナーとして、リオまで5回の五輪と1回のパラリンピック、数々の世界選手権にも帯同した。その間、北島康介選手や萩野公介選手の金メダル獲得をはじめ、多くの日本選手のメダル獲得をコンディショニングの面で支えている。

本シンポジウムでは、小沢氏がトレーナーになったきっかけから、現在行なっている治療の技術的背景や、数々の大一番で選手たちを支えてきた様子などを語っていただく。



伊佐野龍司氏

日本大学文理学部体育学科 准教授
ブラインドサッカー科学サポート

日本大学文理学部卒業

伊佐野氏は2012年ロンドンパラリンピック大会から、ブラインドサッカー日本代表チームのゲーム分析に携わっている。パラスポーツの科学サポートは、現在JSC(日本スポーツ振興センター)を中心に行われているが、ブラインドサッカー協会は、障がい者スポーツ業界の中でも、最も活発に協会が競技普及や選手強化を行なっているだけでなく、科学サポートも協会独自で古くから取り入れている。今回は伊佐野氏自身がこの仕事に携わることになった経緯や、サポート業務の内容について語っていただきながら、2020以降の障がい者スポーツの展望などについても言及していただく。

2019年 **11**月**2**日 (土) 受付 > 14:30
開演 > 15:00

会場：日本大学文理学部図書館オーバルホール

東京都世田谷区桜上水3-25-40 *変更の場合はHPに掲載いたします。

京王線「下高井戸」「桜上水」下車 徒歩10分

問い合わせ：日本大学文理学部体育学科

Tel 03-5317-9717 E-mail:office@nu-taiiku.jp

HP:http://www.nu-taiiku.jp/

